



農作業メモ

水稲 今後の管理について

本年は、5～6月の育苗期間が好天に恵まれ、苗が順調に生育しました。また、田植えが早まった農家も見られました。

保後、田面に小ひびが入る程度、歩いて足跡がつく程度を目安に実施します。その後は根の活性を保つため、間断かん水とします。

5月25日気象庁発表による向こう3か月の予報において、6～8月の気温は「高い」確率が40%、「平年並」または「低い」確率がともに30%となっています。気象情報には十分注意し、今後の管理をしっかり行いましょう。

1 水管理

高温障害軽減には根の活性維持が重要です。

農業用水は水利権により取水量、取水時期ともに制約があることから、かけ流しは行わず、有効に利用にしましょう。

早期落水は外観品質の低下や粒張不良など著しい悪影響を与えます。最低でも出穂後30日間は土壌水分を保ち、完全に落水する時期は収穫の約10日前とします。

無効分げつの抑制や健全な根の維持のため、中干しを行います。

2 穂肥

田植え後30日頃を目安に、有効茎確

葉色の低下は高温障害の危険信号で

す。高温障害軽減のため、ほ場をよく観察し、葉色の低下が見られる場合は適正な穂肥を実施します。適正な穂肥は、食味を損なうことはありませんので生育診断（葉色等）に基づいた穂肥を適切に実施しましょう。

品種名	移植期	基肥量 窒素成分 /10a	穂肥	
			施用時期	施用量 窒素成分 /10a
キヌヒカリ	6月 23日	5kg	7月 29日頃	2kg
彩のきずな	6月 23日	5kg	7月 23日頃	2kg
彩のかがやき	6月 23日	5kg	7月 30日頃	2kg

(主な品種の施肥例 穂肥の施用時期は農業技術研究センター高度利用・生産性向上研究担当の出穂期平年値より算出しました。)

特に、肥料切れで葉色が極端に低下した後の穂肥では葉色が戻るまでに時間がかかり、稲体の消耗が激しくなることにより外観品質の低下を招きます。

3 害虫防除

(1) カメムシ類

斑点米の発生要因の一つにカメムシ類による吸汁があります。

対策は、①出穂期前後の除草はカメムシ類の水田への移動を助長するため、出穂2週間前以降は行わないようにします。②出穂期～乳熟期（出穂後10日頃）に薬剤防除を行います。

(2) フタオビコヤガ（イネアオムシ）

7月下旬から発生し、葉を食害します。対策は、①例年多発するほ場では窒素肥料を減らします。②8月上旬から薬剤防除を行います。

4 適期収穫

高温時は登熟が進みます。

刈遅れ等により胴割れが発生しやすくなります。このため、気象予報を参考に適期収穫に努めましょう。

(大里農林振興センター 農業支援部)